

秋田県健康環境センター年報

第 8 号

平成 24 年度

ANNUAL REPORT

OF

AKITA RESEARCH CENTER FOR PUBLIC HEALTH AND ENVIRONMENT

No. 8 2012

秋田県健康環境センター

はじめに

秋田県健康環境センターは、平成18年度に旧衛生科学研究所と旧環境センターが統合して設立され、現在8年目を迎えています。平成22年度には、保健所でも行われていた試験検査業務が当センターに移管され、本県の保健・環境に関する試験検査体制が一元化されました。

現在当センターは、今後の方向性を定めた「中長期計画」に基づき、秋田県における「健康の保持及び増進」、「健康被害の防止」、「環境の保全」の3つを基本方針として、これらに向けた業務に取り組んでいます。

具体的には、生活習慣病予防、感染症対策、食の安全・安心、八郎湖や田沢湖の水質改善などについての調査研究と試験検査を行っているほか、平成23年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故に関わる食品、環境中の放射性物質の濃度などの測定・監視にも力を入れているところです。

また、これらの業務を横断的に下支えするため、職員は日頃から分析技術の向上、行政や県民ニーズの把握、緊急時の迅速な対応に心がけるとともに、その成果を確実に還元することによって、県民の皆様の安全・安心が確保できるよう努めています。

この年報は、主に平成24年度に当センターが行った、感染症、食中毒、化学物質、放射能、大気・水質環境などの分野に関する調査研究や業務実績の概要についてとりまとめたものです。本書を通じて多くの県民の皆様に当センターの活動への御理解と関心を高めていただくとともに、率直な御意見を頂戴することにより、今後の業務に生かしていきたいと考えています。

県民の皆様の温かい御支援、御協力をお願いいたします。

平成25年12月

秋田県健康環境センター所長

高橋 浩

目 次

I	健康環境センターの概要	
1.	沿革	1
2.	庁舎の概要	1
3.	組織	1
4.	職員名簿	2
5.	業務内容	3
6.	主要機器	4
II	業務実績	
1.	試験検査実績	5
2.	研修・学会等	9
3.	研究業務実績	15
III	調査研究報告	
・	A群溶血性レンサ球菌T型別の分離状況と薬剤耐性の動向	22
・	秋田県における莢膜型インフルエンザ菌の分離状況と薬剤耐性遺伝子の解析	25
・	平成22～24年度における収去食品の細菌検査結果について	28
・	<i>E.coli</i> O104 同定用PCRの確立と陽性対象専用株の作出	31
・	秋田県の一医療機関で継続的に分離された多剤耐性 <i>Achromobacter xylosoxidans</i> が保有する Class 1 Integron の解析	34
・	秋田県内の医療機関、鶏肉、市中における CTX-M 型基質拡張型 β-ラクタマーゼ (ESBL) 遺伝子保有株の分離状況	38
・	秋田県で確認された Shimokoshi 型つつが虫病 15 症例における 臨床、疫学及び診断法の検討	44
・	ヒトパピローマウイルスの検出法における検査精度の向上について	51
・	子宮頸がん検診受診率向上を目指した若い女性の意識に関する検討 —フォーカスグループインタビュー法による質的分析—	55
・	麻疹・風疹及び疑い例からの発疹性ウイルスの検出について	66
・	自家調製したパンソルビン相当品による食品中のノロウイルス検出法の検討	71
・	1,4-ジオキササンを含む埋立処分場地下水等の効率的な処理に関する検討	79
・	東日本大震災後の秋田県における環境放射能調査	85
IV	発表業績	
1.	学会発表	92
2.	他誌掲載論文	103

I 健康環境センターの概要

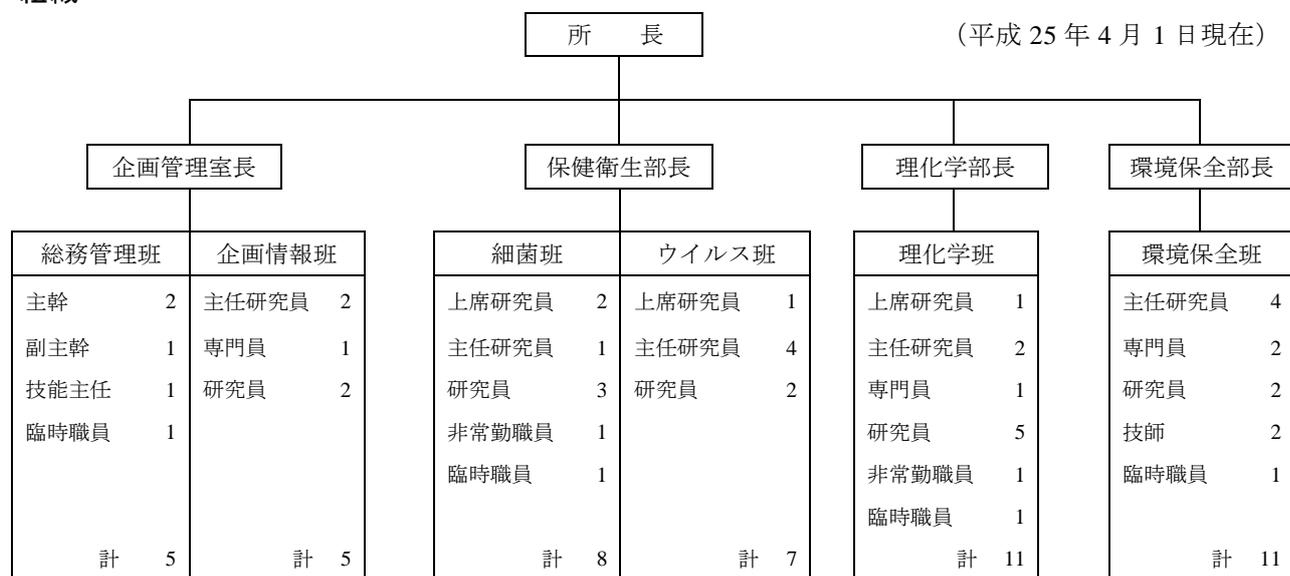
1. 沿革

年月	事項
明治35. 7 明治末期	衛生試験所を秋田市牛島町に設立。 庁舎を秋田市土手長町に移転。
昭和28. 1	衛生研究所に改称。
39. 4	衛生科学研究所に改称。
39. 6	庁舎を秋田市古川堀反町（現千秋明徳町）に新築移転。
45. 7	公害技術センターを秋田市茨島の工業試験場内に設立。
48. 7	庁舎を秋田市八橋に新築移転。
56. 4	環境技術センターに改称。
61. 8 平成12. 4	庁舎を秋田市千秋久保田町に新築移 環境センターに改称。 秋田市山王の県庁第二庁舎に総務班及び監視・情報班を置く。
14. 3	八橋分室敷地内にダイオキシン類分析棟を新築。
18. 4	衛生科学研究所と環境センターを組織統合し、健康環境センターとして発足。 千秋庁舎に企画管理室及び保健衛生部を、八橋庁舎に環境部を設置。
21. 4	八橋庁舎の環境部を千秋庁舎に移転し、庁舎を統合。保健衛生部の理化学部門と環境部の化学物質部門を統合した理化学班を環境・理化学部内に設置。組織を企画管理室、保健衛生部及び環境・理化学部とする。
22. 4	保健所の試験検査課を統合。保健衛生部の微生物班を細菌班とウイルス班に再編し、健康科学班を健康科学・管理班に名称変更。環境・理化学部を理化学部と環境保全部に再編。理化学部には、理化学班を再編した食品理化学班と環境理化学班を設置。環境保全部には環境調査班を名称変更した環境保全班を設置。
24. 4	企画管理室の総務・企画班を再編し、総務管理班と企画情報班を設置。保健衛生部の健康科学・管理班を廃止。理化学部の食品理化学班と環境理化学班を統合し、理化学班を設置。

2. 庁舎の概要

- 1) 所在地 秋田市千秋久保田町 6 番 6 号
- 2) 敷地 867.75 m²（建物建床面積）
- 3) 建物 鉄筋コンクリート造 5 階建 延床面積 4,553.52 m²

3. 組織



総職員数 52 名（正職員 42 名，専門員 4 名，非常勤職員 2 名，臨時職員 4 名）

4. 職員名簿

(平成25年4月1日現在)

	職 名	氏 名
	所 長	高 橋 浩
企 画 管 理 室	室 長	瀬 尾 和 雄
総 務 管 理 班	主 幹 (兼) 班 長	近 江 進
	主 幹	佐 藤 則 子
	副 主 幹	黒 政 太
企 画 情 報 班	技 能 主 任	佐 藤 博 之
	主 任 研 究 員 (兼) 班 長	田 村 高 志
	主 任 研 究 員	藤 谷 陽 子
	専 門 員	佐 藤 穰
	研 究 員	村 山 力 則
	研 究 員	鈴 木 純 恵
保 健 衛 生 部	部 長	齊 藤 志 保 子
細 菌 班	上 席 研 究 員 (兼) 班 長	八 柳 潤
	上 席 研 究 員	和 田 恵 理 子
	主 任 研 究 員	熊 谷 優 子
	研 究 員	高 橋 志 保 之
	研 究 員	高 野 貴 之
	研 究 員	檜 尾 拓 子
ウ イ ル ス 班	上 席 研 究 員 (兼) 班 長	安 部 真 理 子
	主 任 研 究 員	田 中 貴 子
	主 任 研 究 員	斎 藤 博 之
	主 任 研 究 員	秋 野 和 華 子
	主 任 研 究 員	佐 藤 寛 子
	研 究 員	柴 田 ち ひ ろ
	研 究 員	佐 藤 由 衣 子
	(兼) 研 究 員	村 山 力 則
理 化 学 部	部 長	岩 谷 金 仁
理 化 学 班	主 任 研 究 員 (兼) 班 長	小 林 貴 司
	上 席 研 究 員	佐 藤 晴 美
	主 任 研 究 員	珍 田 尚 俊
	専 門 員	大 友 久 利
	研 究 員	松 渕 亜 希 子
	研 究 員	中 村 淳 子
	研 究 員	菅 原 剛
	研 究 員	小 川 千 春
	研 究 員	天 明 さ お り
環 境 保 全 部	部 長	大 淵 志 伸
環 境 保 全 班	主 任 研 究 員 (兼) 班 長	鈴 木 忠 之
	主 任 研 究 員	石 垣 修
	主 任 研 究 員	清 水 匠
	主 任 研 究 員	成 田 修 司
	専 門 員	大 畑 博 正
	専 門 員	高 嶋 司
	研 究 員	玉 田 将 文
	研 究 員	高 橋 英 之
	技 師	佐 藤 健
	技 師	生 魚 利 治

5. 業務内容

(平成 25 年 4 月 1 日現在)

企画管理室	総務管理班	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事, 服務 ・ 予算, 決算 ・ 庁舎管理, 庶務一般
	企画情報班	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究の企画・評価・進行管理 ・ センター中長期計画の進行管理 ・ 広報, 研修 ・ 検査業務管理 ・ 精度管理
保健衛生部	細菌班	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症発生動向調査にともなう病原体検査業務 ・ 細菌感染症と食中毒の試験検査及び調査研究 ・ 薬剤耐性菌に関する調査研究 ・ 医薬品等に関する検査 ・ 収去食品及び環境検体等に関する細菌検査
	ウイルス班	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症発生動向調査にともなう病原体検査業務 ・ ウイルス感染症と食中毒の試験検査及び調査研究 ・ エイズ・性感染症・B型肝炎・C型肝炎の抗体検査 ・ つつが虫病の抗体検査及び調査研究 ・ 新生児マス・スクリーニング検査及び調査研究 ・ 結核登録者情報調査 ・ 健康づくりに関する調査研究 ・ 感染症情報センター業務
理化学部	理化学班	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品の安全性に係る試験検査及び調査研究 ・ 食品放射能の測定 ・ 有害家庭用品試買検査 ・ 収去食品の理化学的検査 ・ 工場・事業場排水中の化学物質の検査 ・ 廃棄物関係検査 ・ 環境中の化学物質に関する調査研究
環境保全部	環境保全班	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共用水域水質調査 ・ 工場・事業場排水基準検査 ・ 工場・事業場ばい煙排出基準検査 ・ 廃棄物関係検査 ・ 生活衛生関係検査 ・ 環境放射能の測定 ・ 大気汚染常時監視 ・ 航空機騒音調査 ・ 酸性雨調査 ・ アスベスト環境調査 ・ 環境保全に関する調査研究

6. 主要機器

(平成 25 年 4 月 1 日現在)

機 器 名	規 格
電子顕微鏡	日本電子 JEM-1010
偏光ゼーマン原子吸光光度計	日立製作所 Z-5000
原子吸光分光光度計	バリアン・テクトロン AA-220FS
原子吸光分光光度計	バリアン・テクノロジーズ AA-280FS
I C P 発光分光分析装置	サーモフィシャー iCAP6300Duo
分離用超遠心機	日立工機 CP70MX
ガスクロマトグラフ質量分析計	島津 QP5000
ガスクロマトグラフ質量分析計	島津 QP5050A
ガスクロマトグラフ質量分析計システム	日本電子社 JMS-700Dほか
ガスクロマトグラフ質量分析計	アジレント・テクノロジー 6890N/5973N
超臨界流体抽出装置	ISCO SFX220
ガスクロマトグラフ質量分析計	島津 GCMS-QP2010 Plus
ガスクロマトグラフタンデム型質量分析計	サーモフィシャー TSQ QuantumGC
キャピラリーガスクロマトグラフ	ヒューレットパッカード HP6890
ガスクロマトグラフ	アジレント・テクノロジー 6890N
F I D 付ガスクロマトグラフ	アジレント・テクノロジー 7890A
FPD・ECD付ガスクロマトグラフ	アジレント・テクノロジー 7890A
高速液体クロマトグラフ	日立製作所 D-7000
高速液体クロマトグラフ	日立製作所 L-7000
高速液体クロマトグラフ	日立製作所 L-7000
高速液体クロマトグラフ	日本ウォーターズ 2695
高速液体クロマトグラフ	日本ウォーターズ 996アライアンスシステム
高速液体クロマトグラフ	アジレント・テクノロジーDAD・FLD検出器付 1200シリーズ
液体クロマトグラフタンデム質量分析計	ABサイエックス API4000
ノルマルヘキサン自動抽出装置	ラボテック HX-1000-8
イオンクロマトグラフ	日本ダイオネクス DX-120
イオンクロマトグラフ	日本ダイオネクス DX-320
高速溶媒抽出装置	DIONEX社 ASE-200
高速溶媒抽出装置	DIONEX社 ASE-300
大量注入溶媒除去システム	SGE社 SCLV
オートアナライザー	日立メディコ 7020
オートアナライザー	ビーエルテック QuAAtro 2-HR
Ge半導体検出器付波高分析装置	セイコー EG&G GEM20P, MCA7700
Ge半導体検出器付波高分析装置	セイコー EG&G GEM25-70, MCA7600
PCRプロダクト検出定量システム	アプライドバイオシステムズ ABI PRISM 7000
遺伝子増幅装置	日本ロシュ ライトサイクラーシステム3
自動核酸精製装置	日本ロシュ MagNA Pure LC2.0
先天性甲状腺機能低下症等スクリーニングシステム	BSD600
低バックグラウンド放射能自動測定装置	アロカ LBC-4201B
モニタリングポスト	アロカ MAR-22
空間放射線量モニタリングシステム	東芝 SD22-T
大型高圧蒸気滅菌装置	平山製作所 HK-530E
大気汚染常時監視テレメータシステム	NEC他
マイクロウェーブ分解装置	マイルストーンゼネラル ETHOS900
航空機騒音自動測定装置	リオン NA-37